

プロジェクトへの期待と注文

東京経済大学教授 南亮進

第1回および第2回の全体会議に参加し、研究が計画通りに進行していることを改めて実感いたしました。プロジェクト・リーダーはじめ研究参加者のご努力の結果であり、ご同慶の至りです。

全体会議の報告に接して感じたことを以下、率直に述べます。

第1に、プロジェクトの目的である「世代間利害調整」という視点をもっと強く意識していただきたい。教育・医療・年金等の分析はそれ自体として重要なのですが、それがどういう場合に世代間利害に関係するのか、どの程度深刻なのかを実証的に解明して欲しいのです。教育・医療・年金等を取り上げさえすれば世代間利害の分析となっているとは言えません。例えば、親は子供の生活費を支出するものの教育費は子供が自己負担すると仮定することで、今日における世代間の利害対立問題は解明されるのでしょうか。

第2に、世代間利害対立は家族制度が健全である場合には存在せず、核家族化することで表面に出ます。この意味で家族制度という社会的安全網の歴史的・国際比較的研究が重要であり、社会学者の協力が欠かせません。

第3に、人類の歴史には様々な利害対立があり社会不安を醸成してきました。世代間対立という新しい現象をそうした歴史の中に位置づける研究が必要です。また発展途上国では宗教間対立や都市・農村間対立が重要であり、世代間対立は必ずしも正面には出てきません。例えば中国における最大の利害対立は地域間あるいは都市・農村間対立です。

このプロジェクトは現在あるいは近未来における緊急問題に答えるものであり、研究成果への期待は大変大きいと思います。今後の一層の発展を祈ります。

医療制度改革を巡る国際ワークショップ

2002年12月12日と13日の両日、医療制度改革に関する国際ワークショップが東京赤坂の財団法人医療科学研究所で開催されました。ワークショップには、T.H. Itiris (Univ. of York)、米国のW. Looney (Pfizer Inc.)、韓国のJ. Jo (Institute for Health and Social Affairs) および K. Choi (Hankuk Univ.) が招待されました。K. Choi氏はかつて韓国厚生大臣の要職にあった人です。

ワークショップは医療・介護における世代間の公平性を論ずるもので、上記の各氏および九州大学の尾形裕也教授と一橋大学の鴫田忠彦教授が報告し、活発な討論が交わされました。

英国におけるNHSの改革は、主として前政権の市場化の方向を踏襲しながら、その欠陥を是正するところにあることが報告されました。米国での主要な問題は医療や医薬品の質の向上にあること、現政権下では皆保険や政府介入の動きが後退していることが論じられました。

報告のうちH. Itiris、LooneyおよびJo-Cho執筆の3論文はPIEのDPとして入手可能であり、T. Okitaの論文はPharmacoeconomicsに掲載されています。



南亮進教授



高山憲之教授

中国の年金改革：高山教授が基調講演

2003年1月10日、大連で中国の年金に関するワークショップが開催されました。主催は中国労働社会保障部です。当日のワークショップで一橋大学の高山憲之教授が中国の年金問題に関する基調講演を担当し、「1997年に導入された新制度（2階部分）は掛金建ての積立に基づく年金ではなく、給付建ての賦課方式年金として事実上機能している」と主張し、中国の年金研究者・行政担当者との間で活発に意見を交換しました。

体制移行諸国の年金改革を徹底討論

2003年2月22日、第3回「移行経済における世代間の利害調整」国際ワークショップが東京国立市の一橋大学佐野書院で開催されました。旧ソ連邦および中・東欧諸国における年金制度の問題点と今後の改革方針をめぐって活発な議論が行われました。

パネリストは次の方々です。M. Gora 教授（ワルシャワ経済大学）、P. Antosik 氏（チェコ：Mercer Human Resource Consulting）、Gal Robert Ivan 博士（ハンガリー-TARK 社会調査センター）、Szeman Zsuzsa 博士（ハンガリー-科学アカデミー-社会学研究所）、R. Shadiey 教授（ウズベキスタン世界経済外交大学）、B. Islamov 教授（ウズベキスタン銀行アカデミー）、Aigul Seitenova 博士（カザフスタン：The Pragma Corporation）、上垣彰教授（西南学院大学）、V. Vasile 博士（ルーマニア国民経済研究所）、S. Afanasiev 氏（ロシア連邦労働社会発展省）。報告論文は討論結果を踏まえて改稿され、『経済研究』あるいは当プロジェクトのDPとして公表されます。



医療を巡る国際ワークショップの様相



M. Gora 教授